

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立朝里小学校  
校長 遠藤 隆典

1 本年度の重点目標

自ら課題をみつけて、自ら行動する朝里の子の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方針

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	児童アンケートにおいて、平日、「全く家庭学習をしない」と回答した児童の割合を3.0%以下とする。	A	12月児童アンケートで2.1%となった。更なる方策改善策として全校でタブレットを活用した家庭学習の取組も始めている。様々な家庭学習を働きかけて家庭学習習慣の定着を進めている。	◎
	特別支援教育の充実	通常学級に在籍する特別な支援を要する児童の指導計画の中間検証と見直しを100%行う。また、特別支援教育に関する研修を2回以上実施する。	A	児童の特性や困り感について校内支援委員会を中心に定期的に情報共有し、児童理解を深めて支援方策の検討・充実を図っている。指導計画の中間検証・見直しを100%行い、特別支援教育の研修も3回実施した。	◎
	国際理解教育の充実	外国語活動及び外国語の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を85.0%以上とする。	B	フォニックスの指導や言語活動の充実により聞き取る力・書き表す力を高め、80.5%の児童が楽しさを感じている。外国語専科加配の講師と授業改善の方針を共有しながら確かな力を育む主体的な学習へ向けた充実へつなげている。	◎
	理数教育の充実	算数・理科の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を80.0%以上とする。	B	理科は89.5%だったが算数66.7%と達成できていない。研修の取組による全校の授業改善の方策に基づいて、子どもたちの主体的に学習活動していく力を高め、主体的・協働的な学びを目指し授業を推進している。	◎
	情報教育の充実	児童アンケートにおいて、「個人情報」は公開しない」「人を傷つける書き込みはしない」と回答した児童の割合を95.0%以上とする。	B	肯定的な回答は「個人情報」は公開しないが91.8%、「人を傷つける書き込みはしない」が94.0%であった。3年生以上への情報モラル教室及び全学年での学活・道徳科での指導により意識は高まっているが、保護者の危機意識が高めるまでには至っていない。	◎
	キャリア教育の充実	勤労観や職業観を育む施設見学や講話などの体験的な学習を第3学年以上の学年で実施する。	B	探究的な学習として、介護施設従事者・手話協会・町づくりの会・志産志食関係者・職人を招いた学習を4年生以上で実施した。3年生は消防施設見学を予定していたが学級閉鎖等で中止となってしまった。	◎
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への興味関心を高める手立ての一層の工夫と、主体的に学ぶ力を高める授業実践を重ねていく。タブレットを活用した家庭学習の取組において目指す家庭学習の姿を保護者と共有し働きかけていく。</li> <li>落ち着いた学習環境づくりを徹底し、主体的・対話的で深い学びの実現と資質・能力を確実に育む授業改善の意識を高める。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる手立てを各学年で工夫させ授業改善を推進する。</li> </ul>				
学校関係者評価委員による意見	<p>教職員が様々なことに前向きにチャレンジしていることがありがたい。読み聞かせの活動を特別支援学級でもおこなっているがやはり反応の違いを実感する。特別支援学級の児童が増えているが、子どもの理解を深めていく上でも、特別支援教育に力をいれていることは素晴らしい事だ。</p>				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的な回答をした児童の割合が85.0%以上とする。	B	学力・学習状況調査では89.9%だが全校児童アンケートでは77.0%にとどまった。学校経営の重点であるあたたかいかわりを全職員の生徒指導の柱にししながら児童の自己肯定感を高めている。	◎
	ふるさと教育の充実	副読本「わたしたちの小樽」・「小樽の歴史」や地域の教育資源や人材を活用したふるさと教育を全ての学年で実施する。	A	青年会議所等外部講師による郷土学習の出前授業や博物館でのふるさと学習を4・5・6学年で実施した。1・2年生は地域探検、3年生は潮音頭体験や学校の歴史を調べる郷土学習を行った。	◎
	読書活動の推進	児童アンケートにおいて、「読書が好きだ」という設問に、肯定的な回答をした児童の割合が80.0%以上とする。	B	肯定的な回答は67.6%である。図書館の修理で長期間使用できなかった要因もあるが、タブレット活用で読書への関心の個人差が大きくなっている。学級での読書指導や委員会の読書イベントで本へ親しむ機会を充実させている。	◎
	体験活動の推進	地域への歴史や人・自然への理解を深める学習を、全ての学年で実施する。	A	全学年において、各教科・特別活動等において地域における体験的な活動を行っている。	◎
	コミュニケーション能力の育成	児童アンケートにおいて、授業で、話し合い活動に進んで意見を発表していると、肯定的に回答した児童の割合を75.0%以上とする。	B	肯定的な回答が72.0%にとどまった。学習に主体的にかかわる力の育成を重点目標としているが、依然として受動的な傾向がみられる。主体的な学習活動を中心とした取組への課題意識を高め授業改善を全校で進めている。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合を95.0%以上とする。	B	「いじめをいけないことだ」と回答した児童が93.1%にとどまった。重点目標でもある「思いやり」を全教育活動及び道徳科を通じて、重み付けを行いながら指導を行い、いじめのない学校づくりを進めている。	◎
改善方針	<p>「全職員で朝里小全児童を育てる」「あたたかいかわりを行う」という生徒指導ビジョンの共有を今後も重視していく。個々への丁寧な関わりを増やし向上心と自信を高めながら教育活動の充実を図っていく。学校生活の様々な場面で主体的な姿を大切にする指導の工夫や読書に親しむ機会づくりなど学校課題として課題意識を高め全校で取り組んでいく。</p>				
学校関係者評価委員による意見	<p>子どもにかかわる仕事をしているが自己肯定感が低い子どもが増えていると感じる。褒めて伸ばしていきたいが、ただ褒めるだけでは響かないので、関係づくりが大切である。学校関係者だけでなく地域全体で力を合わせていく事が大切である。地域で子どもと対話する機会を再び大切にしてほしい。川や魚に詳しい人もいるので、ふるさと教育において地域の人材をこれからも積極的に活用してほしい。</p>				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	児童アンケートの「スポーツをしたり、体を動かすことが好きか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を85.0%以上とする。	B	肯定的な回答が前期88.0%、後期84.3%となった。屋外での運動・遊びができない冬期間の運動機会の充実へ向け、体育授業で意欲的で豊富な運動量の伴う学習展開へと工夫を図り運動への親しみを高めていけるよう取り組んでいる。	◎
		食育の推進	保護者アンケートの「子どもは朝ご飯を食べてから出かけている」という設問に、肯定的に回答する割合を95.0%以上とする。	B	朝ご飯率は94.4%と高いが目標に到達していない。朝ご飯週間に更に確実に定着するように朝ご飯の大切さを様々な機会・お便りで児童・保護者への周知・はたらきかけを行っている。	◎
		健康教育の充実	児童アンケートの「毎日、早寝早起きをして規則正しく生活していますか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上とする。	B	肯定的な回答が前期82.2%、後期77.5%となっている。規則正しい生活習慣が健やかな成長に重要であることを、様々な機会・お便りで児童・保護者に周知はたらきかけしている。	◎
改善方針	全体的にやや意識の低下が見られる実態となっているので、職員の課題意識を高め、取組の改善を検討し授業での各種活動の充実や児童・保護者への働きかけの充実につなげていく。					
学校関係者評価委員による意見	全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果が全国を上回っていて地域として大変誇らしく感じる。学力同様にこのような結果につながっているのは教職員の一生懸命な取組があつてこそと感じる。朝食をしっかりと食べる習慣ある程度ついているが食べていない子どももいると思われるので、しっかり定着させたい。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	長期休業中にオンラインによる学習支援を全学年級の50.0%以上で1回以上行う。	A	夏季休業中に通常学級の78.9%の学級がオンラインでの学習課題やメッセージ配信等の学習支援を行った。冬休みもメッセージ配信等の学校との繋がりを意識した取組を全学年で進めている。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	コミュニティースクールとして、地域の方と協力した児童・保護者向けのイベントを1つ以上実施する。	A	CSとして、冬季休業中に、児童保護者向けイベントとして親子防災教室と木工クラフト教室を実施した。図書ボランティアによる図書室整備も地域の協力を得て実施することができた。	◎
改善方針	家庭・地域との連携・協働を学校情報化の推進と運動させながら進めていく。素早い情報提供や情報伝達の効率化として各種情報のメール配信やHPでの情報発信だけでなく、アンケート機能やタブレットを活用した家庭と学校の双方向の情報伝達の取組を今後も進めていく。CSとしては、地域の連携した中で子ども保護者の豊かな体験につながる取組を重視して取組の充実を図っていく。					
学校関係者評価委員による意見	地域と連携した事業は2つとも大変よかった。親子防災教室は、消防署員も大変子ども目線でわかりやすく説明していてとても良かった。木工クラフト教室も旧豊倉小とのつながりを大切Sにできていて素晴らしい取組なので今後も継続してほしい。来年は材料集めからCSとして活動して、子どもたちに自然の材料だけで工夫して創作するという体験につなげていくといい。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	朝里小中学校の教職員が小中一貫を見据えた具体的な取り組みについて検討する機会を年2回以上実施する。	A	児童生徒理解を深める合同研修会を夏冬2回実施し連携が深まっている。6年生の朝里中での体育授業体験を実施した。児童会生徒会のいじめ防止へ向けた学校生活や児童会生徒会の交流も行うことができた。	◎
		教育環境の整備・充実	タブレット端末・デジタル教科書の日常的活用100%の学級で取り組む。	A	学校全体でGIGAスクール構想推進への課題意識を高め日常的かつ積極的なタブレット活用につなげることができている。デジタル教科書にかかわる研修も複数回行うなど有効活用へとつなげる取組を進めている。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全学年で計6本以上の算数科の研究授業を行う。また、教職員の資質・能力の向上へ向けたミニ研修会を3回以上実施する。	A	全学年の研究授業を実施した。また、公開研究会も実施し、活発な研究協議により研修が深まった。また、学校課題や今日の課題について研修するミニ研修を計4回開催するなど協働的に取り組む体制を構築することができた。	◎
		学校運営の改善	在校超過勤務時間月45時間以下を職員の80.0%以上で実現する。	A	10～12月に92.5%の職員が在校超過勤務時間月45時間以下となっている。勤務開始時刻を早めたり、協働的に業務を進める運営体制と校務用PCやタブレットを用いて情報共有と効率化する学校情報化を進めている。	◎
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室と防犯教室を実施する。	A	1～2年生には市の交通安全課による交通安全教室を実施し、登下校事故防止を指導した。3～6年にはSNSでのいじめや個人情報・金銭トラブルを学ぶ授業を各学年1回以上実施し課題意識を高めている。	◎
改善方針	全体的に職員の学校課題への課題意識が高まり、各種取組の協働的推進や共通実践等の取組が充実してきている。今後も学校全体での方向性や具体的取組を共有しながら学校運営の充実につなげていく。また、教職員としての資質・能力向上へのミニ研修も必要に応じて設定していく。					
学校関係者評価委員による意見	小中学校で教職員の合同研修など連携できているのは素晴らしい事だと思う。タブレット端末等のICT活用では、低学年でもしっかり使いこなしているのを目にして素晴らしいと感じている。学校の全学年でしっかり取り組まれているのを感じる。学校の窓の明かりが以前より早く消えるようになって働き方改革の成果が出てきているのだと感じている。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館や博物館を利用した学習を2つの学年以上で実施する。	A	市立図書館での学習は、コロナ対応で実施できなかった。4・5年生が博物館を利用し小樽の歴史について学習し、6年生はウポポイを利用しアイヌ文化について、理解を深めることができた。	◎	
改善方針	今後も、実現可能な施設利用や見学、講師を招いての授業などを積極的に実施していく。					
学校関係者評価委員による意見	施設見学や外部講師を積極的に活用していくことを望んでいる。					